

新時代へのみやざき高等学校教育魅力化推進事業 宮崎県教育委員会

目的

- 本県の中山間地域の高等学校の魅力高め、地域的制約を超えた質の高い教育活動や地域課題に向き合った探究的な学びを提供するために、遠隔授業の活用による教育実践、他校との交流、地域資源を活用した人材育成の取組を推進し、今後の地域社会を担うための核となる人材の育成を目指す。
- 将来的にネットワークを全県化し、持続可能な社会の作り手としての本県高校生の資質・能力の育成を目指す。

現状

【中山間地域（地元）高等学校】

- 進学者数の減少
- 学校規模のさらなる縮小
- 配置教職員の減少等によって生徒の求める多様な学び、質の高い学びに対応できない。
- 地元高等学校における学びの魅力減

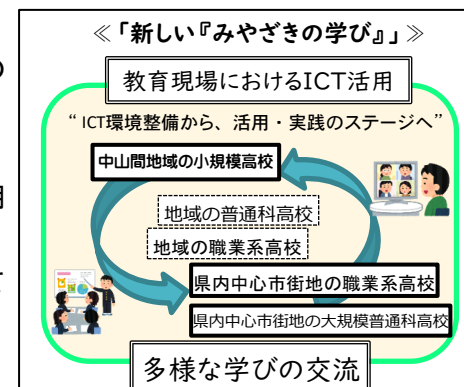
【多様な高等学校間の学びの交流】

- 県内の様々な高等学校で特色のある探究的な学びを実践しているが、学校間の交流が乏しい
- 「普通科系高校」と「職業系高校」の割合が5：5という本県高校配置の特色があるが、学科の枠を越えた学びの交流が乏しい。

1. 遠隔事業に関する取組の概要

同時双方向型の遠隔授業などICTを活用した連携・協働

- 遠隔授業実施に向けた校時の検証、受信校と配信校の教育課程及び教職員の配置に係る課題の検証
- 試行としての「総合的な探究の時間」の遠隔授業（合同授業型）の実施
- 放課後の講座や大学入試に係る補習授業等における遠隔授業システムの活用
- 遠隔授業（教科・科目充実型）の適切な運営に係る教員向け研修の実施
- 地元自治体等と連携・協働した「探究的な学び」の発表・交流との場としての「みやざきSDGs教育コンソーシアム（MSEC）フォーラム」の活用（ICT活用推進による多様な学びの成果研究発表・交流の場（オンライン発表））

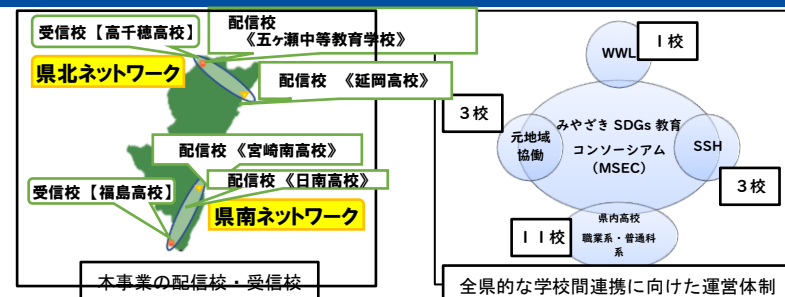


2. 地元自治体等の関係機関と連携・協働する体制の構築に関する取組の概要

- ① 県北コンソーシアム（高千穂高等学校）
【構成機関】世界農業遺産高千穂郷・椎葉山地域活性化協議会・人材育成プロジェクトチーム、宮崎大学・世界農業遺産研究グループ、五ヶ瀬中等教育学校、宮崎大学地域資源創成学部、西臼杵三町による高千穂高校魅力向上推進委員会、高千穂町、日之影町、五ヶ瀬町
- ② 県南コンソーシアム（福島高等学校）
【構成機関】串間市、串間商工会議所、南九州大学、宮崎産業経営大学経営学部、宮崎大学地域資源創成学部、宮崎学園短期大学

3. ネットワークを構成する学校

- ① 県北ネットワーク構成校
【受信校】高千穂高校
【配信校】延岡高校、五ヶ瀬中等教育学校
- ② 県南ネットワーク構成校
【受信校】福島高校
【配信校】宮崎南高校、日南高校



育成を目指す資質・能力

- 関係高等学校間のネットワークの更なる活用と広がりによって、学校・学科間での異なる学びや異なる地域間での交流が実現し、学校内の生徒間だけでは得られない深い学びを実現し、自ら課題を設定して解決に向け主体的に学習に取り組む態度の育成を目指す。
- 生徒一人一人が、自分のよさや可能性を認識するとともに、他者を価値ある存在として尊重して対話し、多様な人々と協働しながら社会的変化を乗り越えて豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となるための資質・能力の育成を目指す。

主なアウトプット(活動目標)

- ① COREネットワークの構成校における遠隔授業の実施科目数
令和3年度…0、令和4年度…3、令和5年度…8
- ② 地元自治体等の関係機関とコンソーシアムを構築している学校数
令和3年度…2、令和4年度…2、令和5年度…2
- ③ ネットワーク構成校において「総合的な探究の時間」に遠隔授業を行った実施数
令和3年度…2、令和4年度…2、令和5年度…6
- ④ 教育課程外における教科指導に係る遠隔授業の実施数
令和3年度…2、令和4年度…2、令和5年度…20

※令和3・4年度は、実績値

主なアウトカム(成果目標)

- ① 学びの基礎診断等により把握する生徒の学力の定着・向上の状況
各受信校にて実施している「学びの基礎診断」等に関する実施状況やデータを検証してより具体的に設定する予定
- ② 地域課題の解決等の探究的な学びに関する科目等の数
令和3年度…7、令和4年度…7、令和5年度…7
- ③ 免許外教科担任制度の活用件数
令和3年度…0、令和4年度…0、令和5年度…2
- ④ 自分の住んでいる市町村など、ふるさとが好きである
令和3年度…87%、令和4年度…84%、令和5年度…92%
- ⑤ 将来ふるさとへ貢献しようとする考えをもって進路選択を行っている
令和3年度…53%、令和4年度…58%、令和5年度…60%

※ ④⑤については、本県で毎年実施している「みやざきの教育に関する調査」と同項目により実績値の比較で成果の検証を行う。 ※令和3・4年度(④⑤以外)は、実績値

委託期間終了後の見通し

- 将来的にネットワークを全県化することで、遠隔授業(教科・科目充実型)の恒常的な実施により、これまで中山間地域の小規模校で受講できなかった科目の受講や習熟度別授業の実施が可能となるなど「新しい『みやざきの学び』」が確立されることで、将来の地域を担う人材の地元への定着と地域外からの流入が促進される。
- 多様な高等学校間の学びの交流や全県的なコンソーシアムの持続可能な運営による外部団体との連携が恒常的に行われることで、高校生が互いのよさを生かしながら、新たな価値を創造し、よりよい持続可能な社会を実現しようとする態度を養成することができる。